

- 73 冥理遂無決 冥理 遂に決すること無くんば
- 74 自茲長已矣 茲れより長く已みなん
- 75 言之涙千行 言えば涙千行（もろ）
- 76 生路今如此 生路 今此のごとし
- 77 聞之腸九轉 聞けば腸九轉す
- 78 幽途復何似 幽途復た何似（いか）ん
- 79 拙詞四百言 拙詞四百言
- 80 以代使君誄 以て使君の誄に代へん

▼「人々の呪詛により命を落とした藤原滋実への哀悼」(その四)

そして【九段】を受け、七十三・七十四句の「冥理 遂に決すこと無くんば／茲れより長く已みなん」の句意が前述した白詩「哭孔戩」（注四）の三十一句・三十二句「茫茫たる元化の中／誰か此の如き権を執る」の内容と表裏をなしていることが判明する。白居易が直接的に天の神の「在」「不在」を問い掛けるのに対し、道真は一步ひかえた婉曲的な表現に徹しているは、道真の今の置かれている立場の不安定さを暗示する。その揺れる心情が、最後の句へと一気に流れて行く。そして君を悼む気持ちをも、本来ならば「誄」の文体で綴るべきだったが、その自分の心情は、この五言古詩というスタイルでしか、言い尽せなかつたと、この一文を止めるのである。